

令和5年度第1回大船渡市立博物館協議会 議事録

開催日時：令和5年6月2日（金）10：00～10：50

開催場所：大船渡市立博物館 多目的ホール

出席者：【委員3名】

佐藤真優子、西村文利、中嶋敬治

【事務局5名】

教育長 小松伸也、教育次長 伊藤真紀子、博物館長 鈴木満広、
館長補佐 佐藤貴裕、主任学芸員 工藤やよい

1 開 会

鈴木館長の司会で開会。3人の委員の出席で協議会が成立していることを報告。

2 挨拶

小松教育長

3 大船渡市立博物館協議会会長の選任等について

大船渡市立博物館管理運営規則第9条の規定により、協議会会長の選任を行うこととし、館長が会長の互選について委員の意見を求めた。

（委員）

事務局案があれば示してほしい。（他の委員も同意）

（館長）

事務局では西村委員に会長をお願いしたいと考えている。よろしいか。

（各委員）

はい。

（館長）

それでは西村委員に会長をお願いする。会長は職務代理者を指名してください。

（西村会長）

中嶋委員をお願いしたい。

（中嶋委員）

了解しました。

（館長）

それでは職務代理者は中嶋委員に決定します。

ここからは、大船渡市立博物館管理運営規則第9条第2項の規定により、西村会長が議長となり進行。

4 報 告

- (1) 令和4年度大船渡市立博物館事業実績について
事務局から昨年度の事業実績について説明した。

(委員)

教育普及事業（連携事業）の学校等団体利用は、どのような目的で来館しているか。

(事務局)

令和4年度で特徴的なものは、仙台第一高等学校の担当教諭が地質を専門に研究しており、以前気仙地域をフィールドに研究されたことから、当館を見学したいというものや、毎年来館しているリピーターの学校、防災学習を学びたい学校などである。

(委員)

調査研究事業の地質学資料調査はどのような調査か。

(事務局)

気仙地域の特徴的な地層を確認するもので、令和4年度は主に化石の調査である。

今後、岩石や鉱物も調査対象となっていることから調査していく。

5 協 議

- (1) 令和5年度大船渡市立博物館事業計画について
事務局から今年度の事業計画について説明した。

(委員)

普及事業（連携事業）において、環境省やインフォメーションセンターとの連携はどのようになっているか。

(事務局)

環境省や碁石海岸インフォメーションセンターとは、常日頃から相互に職員が行き来し、情報を交換している。

また、二ヶ月に一度、碁石海岸施設等連絡会議（構成団体：レストハウス、碁石海岸インフォメーションセンター、世界の椿館・碁石、市観光交流推進室、大船渡市立博物館）を開催し、行事予定などの情報を交換して、相互に協力している。

特に、碁石海岸インフォメーションセンターとは、同センター主催事業に講師として学芸員を派遣するなど協力し、逆に当館主催事業にいろいろな面で協力をいただいている。

なお、新県道が開通してから、車の流れが変わり博物館の前を通る車の数が減った。このことに伴い、入館者が減っている状況もあり、碁石インフォメーションセンターやレストハウス、世界の椿館・碁石には、企画展を開催するごとに内容を変え、ポスターを貼っていただき、歩いて二・三分程度で近くに博物館があることをPRしてもらいながら、連携を取り事業を進めている。

(委員)

碁石海岸は観光関連施設が集中していることから、相互に連携を取りながら事業を進めてほしい。

(委員)

施設改修事業の常設展示改修とは、どのようなものか。

(事務局)

現在の荒れ狂海コーナーを拡張するとともに、隣り合う体験コーナーが狭くなることから、館内の別の場所に移設などを行うものである。

(委員)

海辺の生物観察会に参加しとても楽しかったが、最後にごみ拾いなどを行うのも良かったのではないかと思った。

(委員)

先日の地質観察会は大変人気があったようだが、博物館のフェイスブックはあまりフォロワー数が多くはないようだが、何で周知したのが良かったのだろうか。

(事務局)

今回の観察会は、初心者向けに募集を行い、全部で 108 人の応募者があり、抽選の結果、午前と午後合わせて 52 人の参加となったが、応募者の約半数が参加できなかった。

周知は市広報紙やホームページ、SNSで行い、特別にこれまでと変わった方法をとっておらず、地質に対する関心が高かったことや、新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたことによって、外出する人が増えたことが背景にあるのではないかと思っている。

申し込みは、ほとんどがメールフォームからであり、ホームページを見ているのではないかと思っている。

また、博物館独自のツイッターとフェイスブックについては、約1ヶ月前に開設したところで、今後、もっと多くの人に広く情報を発信していきたい。

(委員)

青森の森林博物館、栗原市の栗電ミュージアム、八幡平市の漆文化の展示など、それぞれの博物館には特徴があり、当博物館は、地質や化石などが地域の特徴と考えている。

今後も地域の特徴を出す企画や展示内容を追求していければよいと思う。

(委員)

海辺の生物観察会や地質観察会など実際に子供たちが参加し、体験するのが良いことと思う。自分が住む街の知らないことを新たに発見する貴重な機会となると思うので、今後も続けてほしい。

(議長)

令和4年度に開催した博物館講座に参加したが、興味深い良い時間を過ごせたと感じている。

この内容は、中学生であれば十分理解し、喜んで聞けると思う。

東日本大震災津波は、各学校でいろいろと調べているが、講座では、昭和や明治の津波について新しい内容があり、今後、講座の内容を来館した各学校に

PRし、要望を聞きながら防災学習などに活用していければ良いと思う。
また、出前授業が行えると総合学習に役立つと思う。

(議長)

委員の皆様からいただいた意見を、今後の博物館事業に生かしていただくようお願いする。

6 その他
特になし。

7 閉 会
鈴木館長が閉会を宣言。午前 10 時 50 分終了。